熊日 H29.4.24

赤十字飛行隊と防災士会県支部

災害時連携 全国初の協定

大規模災害時に連携して支援活動に当たる協定を締結した赤十字飛行隊熊本支隊とNPO法人日本防災士会県支部のメンバー＝23日、熊本空港

大規模災害時、自家用機で物資や人員の輸送などに当たる民間ボランティアの赤十字飛行隊熊本支隊とNPO法人日本防災士会県支部は23日、有事に連携して支援活動に取り組む協定を締結した。

飛行隊と防災士会の協定は全国初。熊本地震では、飛行隊が岡山市で調達した物資を南阿蘇村の東海大阿蘇キャンパスまで輸送。防災士会は全国から約800人を益城町などに投入した。

熊本地震の教訓から飛行隊の活動には地上班の支援が欠かせず、協定では空港から被災地への物資輸送や情報提供を防災士会に担ってもらう。防災士会のメンバーを運ぶことも想定している。

締結式は熊本空港であり、計10人が出席。防災士会の宮下正一支部長が「協定により支援活動の幅が広がる」、飛行隊の新永隆一支隊長は「空路で物資を運んでも地上の支援が必要。うまく連携していきたい」とあいさつし、連絡体制などを確認した。

式後、メンバーは飛行隊の所有機に体験搭乗した。（福井一基）

◆亀岡登校事故5年、遺族追悼

京都府亀岡市で2012年4月、集団登校中の児童らの列に車が突っ込み、10人が死傷した事故は23日、発生から5年となり、現場の通学路で、亡くなった3人の遺族が犠牲者を追悼した。

法要には約30人が参加し、花を手向けた。小学3年の横山奈緒さん＝当時(8)＝を亡くした父の博史さん(42)は「5年はあっという間。時間がたっても変わることはなく、事故からずっと苦しいままだ」と振り絞るように話した。

◆赤十字副総裁、長崎の爆心地に献花

赤十字国際委員会（ICRC）のクリスティーヌ・ベーリ副総裁は23日、核兵器廃絶をテーマに意見を交わす各国赤十字代表の国際会議が24日から長崎市で始まるのを前に、爆心地で花をささげた。「一瞬で多くの命を奪う無差別兵器の恐ろしさを感じた。強い意志を持って、廃絶を訴えたい」と意気込んだ。

初めて被爆地を訪れたというベーリ副総裁は、市の原爆資料館も訪問。焼け野原となった72年前の長崎や皮膚がただれた被爆者の写真に見入

◆「水ド」新た

「ゲゲ

に登場

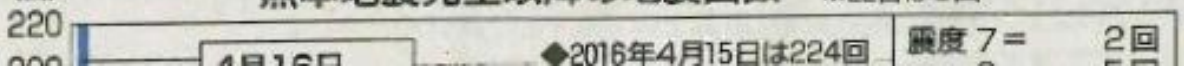
のプロン

ぶ烏取県

木しげる

日、市制

な像18体

南阿蘇村16、西原村5、益城町20、八代市1）

熊本地震発生以降の地震回数 ※22日は0回